

学園五十周年記念祭

記念式典

昭和三十七年十月五日、本学に於て学園五十周年記念式典が盛大に挙行された。学園の創立は、弘治二年（一、五五六）身延山第十四世善学院日鏡上人の「西谷善学院」に発するのであるが、大正三年文部大臣の認可を得て、「祖山学院」と改称され、更に昭和十六年に「身延山専門学校」並に「祖山中学」と変り、同昭和廿三年に至って中学は「身延山高等学校」となり、習廿四年に専門学校は現在の「身延山短期大学」となって今日に及んでいるのである。

「祖山学院」となってから五十周年を迎えたので、爰にその記念祭が催されたのである。先ず当日は、絵本山大客殿に於て学長藤井日静猥下の発声による玄題三唱により開式、学頭松木本興教授の経過報告に続いて、管長山田日真猥下を始め、立正大学長石橋堪山師（代理坂本幸男博士）、大本山池上本門寺貫首伊藤日定猥下等の祝辞があり、列席者一同深い感銘の中に式典を終了した。

尚、これに先き立って仏殿では、学園関係物故者の追悼法要が修された。また、記念行事の一つとして、永年勤続者（二〇―三〇年）の表彰が行われた。表彰されたのは、松木本興、里見泰穂、室住一妙、林是幹、疋田英肇、中里日応、坂本幸男、飯沼竜遠の各教授諸師である。

同窓会大会と懇親会

記念式典終了後、本学に於て全国各地より集った同窓生諸師による大会が開かれた。学監望月日雄師より、鉄筋の校舎建設についての計画が述べられたあと、大会議長に荒木義栄師（東京同窓会長）副議長に三木浄達師（京都同窓会）樋口是端師（本学師親会長）がそれぞれ推薦され、次の如き議事がおこなわれた。

一、同窓会支部を各地に結成する件

各地区とも実情に応じて、出来る限り宗務所単位に同窓会の支部を組織し、支部毎に会員名簿を完備し、常に本部との連絡を図る。

一、校舎建築の件

現在の老朽校舎では、既に充分な教育活動が出来ない状態なので、身延山開創七百年記念事業の一環として、近い内に建設することとなり、同窓会も全面的にバックアップすることに決定し、その他の件

同窓生は移動のあった場合、本部並に支部へ連絡をとること。及び、「棲神」の会員として加入すること。

以上の件について満場一致決議された。この後引き続き夕刻より東谷覚林坊を会場として、懇親会が開かれた。

塩田博士学位取得祝賀会

先きに『法華教学史の研究』で文学博士の学位を得られた本学

教授塩田義遜先生の祝賀会が、十月五日の学園記念祭に続いて挙行された。坂本博士より渡米中の論文主査西博士に代って学位論文審査報告があり、加賀美宗務総長、望月前総長、並びに本学より飯沼教授が祝辞を述べ、記念品の贈呈がおこなわれた。塩田博士は病床につかれておられたので夫人が代って出席され、録音による博士の謝辞があり、祝賀会を終了した。

講演会と弁論大会

十月八日身延会館に於て、記念講演会が催された。「宗教と生活」(松木本興教授)「宇宙時代と人間」(白上謙一理学博士)終って映画が上映された。また此の日、西谷常経殿を会場として全国高校弁論大会が華々しく展開され、各県よりの参加二十校に及び「山梨放送」の後援をえて盛会であった。

書道展

記念祭の一環として、学生及び同窓諸師の出品をえて、書道展が開催された。主として加藤雲洞先生の指導により、展示された作品は学長猊下の御染筆を始め多彩であった。

これと共に写真展も開かれ、学園五十周年の歩みを写真でなつかしく飾り、同窓諸師の目を集めた。

日蓮宗教学研究大会

身延山、宗務院、立正大学の共催に依る日蓮宗教学研究大会が

十月の六七両日にわたって開催された。本学を会場として開かれたのは、今度で三回目である。今回は研究発表者三十余名を数え、特に六日の午後からおこなわれた特別発表の『宗教と教育』の問題は、活潑な討論があり、有意義であった。(上田・記)

学会彙報

〔昭和三十七年度〕

日本印度学仏教学会

日本印度学仏教学会第十三回学術大会は、昭和三十七年五月十九・廿日の両日にわたり、京都の竜谷大学に於て開かれた。本学関係の研究発表者は次の通りである。

一、日蓮聖人の儒教観

上田 本昌

第十五回日蓮宗教学研究発表大会

昭和三十七年十月六・七日の両日、本学を当番校として開催した。本学関係の研究発表者は、次の通りである。

一、理と事について

室住 一妙

一、宗教と教育―日蓮聖人に関連して―秋 山 智 孝